

メッセージアウトライン

2015年1月18日(日)

聖書箇所：ヨハネ3：16

タイトル：「神の愛に応える究極の選択」

テーマ：私たちの人生は、何かを選択することの連続である。人生にあまり影響を及ぼさない選択もあれば、いのちに関わる選択もある。ヨハネ3：16に示されている、私たちの人生の究極の選択について考えてみよう。

今年の年間聖句は、Iコリント13：13である。「いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」とある。なぜ愛が一番すぐれているのか、年間を通して考えていく。今回は小聖書と呼ばれる聖句から、神の究極の愛を見る。

はじめに：

*私たちは、人生でどちらかを選ばなければならない岐路にどれだけ立ったか。

- ・自分で選べなかったこと
- ・自分で選べたこと——(1)ほとんど人生に影響を与えなかった選択
(2)人生に大きな影響を与える選択

*神が選ばれた道と人間が選んだ道

本論：

*ヨハネ3：16の聖句に見る、①神がお選びになった道 ②人間に選ぶように求められていること

①「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された」

- ・神の愛の深さ
- ・神の愛の広がり
- ・神の愛の具体的表現
- ・神が人間を救うために選ばれた究極の方法

②「それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」

- ・人間の側に迫られている選択——御子を信じるかどうか。
- ・信じる者へ与えられる神の約束
- ・信じない者への滅びの宣告

結論：

*私たちに与えられた選択の自由

- ・自由を与えてくださった神の愛
- ・愛は自由に選ぶことのできる中で、機能し成長する。
- ・自由に選んだ結果に対する責任
- ・神を拒み、結果の責任を問われた人が口にする不満への反論
- ・御子を信じた者が、絶えず神に従うことを選び続けるか

以上のことを心に留め、あなたは、どちらを選ぶか。